

施策7-1

【経済産業部】

	答申より	担当
1	<p>【目標値について】 観光入込客数の実績の明細（新規訪問者／リピーター、年代、国籍など）やSNSの発信者・その閲覧者の属性、各コンテンツへのアプローチの実態などを分析し、目標値設定に活用しては。</p>	<p>観光振興課では、観光入込客の実績などを分析し目標値設定に活用したいと考えています。しかし 観光入込客数の集計については、直売所施設や宿泊施設、観光施設の来訪者数、宿泊者数について、それぞれの事業実施者の協力（無償）を得て数値を集計して算出しています。そのため、来訪者の属性を把握するためには、それら全ての観測箇所ですべて統一的な観点による計数が求められます。これは現在の市による集計では、不可能です。昨今では、携帯電話のGPS機能を活用した人流データを活用することが多くなっていますが、継続的な予算を伴い、大きな事業費となるため慎重に検討する必要があります。 SNSやデジタルコンテンツの閲覧者の属性についても、サイト運営会社に対する費用を伴うものになります。</p>
2	<p>【満足度について】 「何に満足したか」を知ることのできる調査項目を設定するのはいかがか。</p>	<p>現行の観光アンケート調査では、満足度を10段階評価でその度合いを聴取しています。そのアンケート調査では、本市の「良かった点」や「勧めたい点」を聞いており、満足度に関連付けて分析しています。</p>
3	<p>【質の向上について】 人が多く訪れる等の「量」を良くするだけでなく、ガイド料を取るといったことによる「質」の向上も重要では。</p>	<p>「量」を良くするだけでなく「質」の向上も重要であると観光振興課では考えています。 来訪した人が「また来たい」と感じて実際に来てもらうこと（再訪）に繋げることが必要であり、「持続可能」の意味するところでもあると考えます。そのためには、来訪者の満足度を高めるための取組みとして、市内部での「受け入れ態勢」の整備が必要であると考えます。 ハード面の整備だけではなく、ガイド養成や食フェアなどイベントの開催といったソフト面であり、また、受け入れる側として市民の理解や姿勢も求められるところです。そのため、事業者だけでなく、市民の皆さんの理解と協力を得ながら「観光まちづくり」を進めていく必要があると考えます。 今後も継続して、DMOや観光協会、その他関連団体等と協議していきたいと考えます。</p>
4	<p>【住民の「住みやすさ」と、住民以外が訪れる「観光」の両立について】 近年オーバーツーリズムなどに起因する「観光公害」が問題となっている。 ①福津市では観光地と居住地のゾーニングや住民への啓発は行っているか。 ②評価指標として、訪問される側である住民の満足度の視点も必要では。</p>	<p>①福津市観光基本計画ではゾーニング等はありませんが、第2次福津市都市計画マスタープランで「観光交流ゾーン」や「観光交流スポット」の位置づけを行っています。周知につきましては計画策定時に市民意見公募を行ったほか、策定後は広報や市公式ホームページ等で行っています。 ②参考意見として、DMOや観光協会、その他関連団体の中で協議します。現在、市民向けとしては、市民意識調査を実施していますが、それも踏まえて、どのような方法で何を聴取し、そのデータをどのように活用していくのかを検討していきたいと考えます。</p>
5	<p>【関係人口等の観点から】 イベントやワークショップ等を大切にし、「市民に着眼した観光プラン」をアピールしていくことが持続的な観光施策につながるのでは。</p>	<p>人の趣味や嗜好、興味関心は多種多様であり、観光の視点で追い求めていくことは、多岐にわたります。イベントや地域行事、ワークショップ等あらゆる分野での取り組みが関係人口や交流人口を増加させるものと考えています。予算やマンパワーが限られている中で、観光振興課としては、市民の暮らしや市民・市外の人との交流を通じて、関係人口や交流人口を増加させて、福津の観光の魅力向上に繋げたいと考えています。</p>

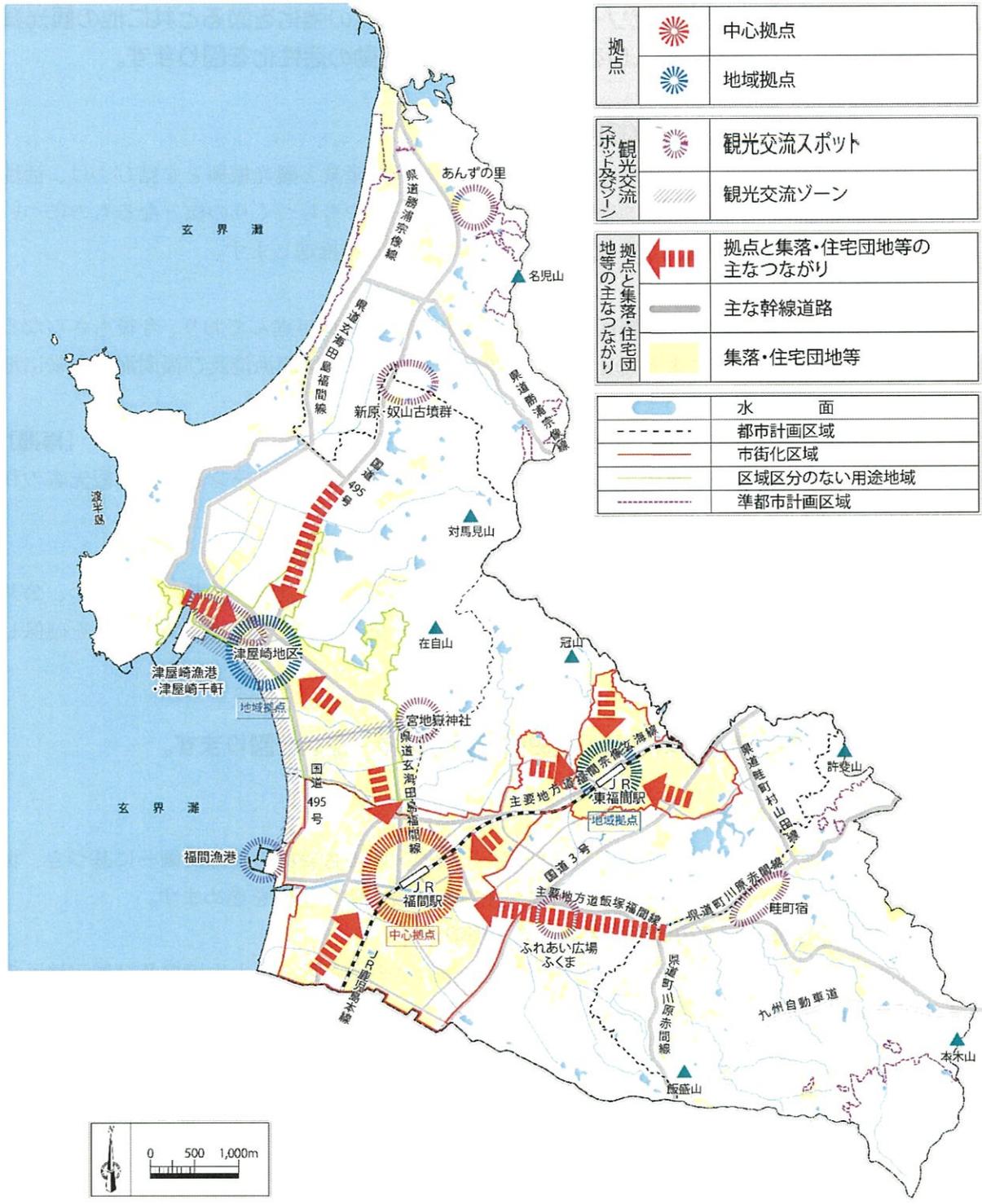


図 3-2 拠点の整備方針